

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子選

銀鼠の鞘を払ひて白木蓮

川崎市 久保田秀司

△評▽一瞬の動きを描いたことで、モクレンの咲く勢いと花期の短さが伝わってくる。さを払って現れた白い光がまぶしい。

眠る子の隣にあてがふ春シヨール

行田市 吉田 春代

△評▽「掛ける」でも「包む」でもない表現が絶妙。日本語の豊かさを実感する作品。

大人びてうつむきがちに卒業子

神戸市 小林 照明

大声で返事が出来て入学す

茅ヶ崎市 古田 哲弥

一輛のわたる鉄橋雪解川

島根 百合本暁子

朽ちかかる杭を囲みて草青む

川口市 高橋さだ子

春愁や柳の気も失せて無精影

湖西市 宮司 孝男

句心の広がって行く春の星

唐津市 梶山 守

日当りの良き金柑の甘さかな

鹿嶋市 津田 正義

靴ひもの解けて気付く草かな

東京 石川 昇

井上 康明選

翳りなきほほほ笑い並ぶチューリップ

伊勢市 奥田 豊

△評▽かげりなきほほほ笑みとは、チューリップが大ぶりの明るい花を並んで咲かせている様子を思わせる。花の色は黄色を想像した。甲斐が嶺を雲の彼方に春惜しむ

富士市 後藤 秋臣

△評▽甲斐が嶺は、東海道から見るか北に連なって見える。雲のあなたの残雪の山々は、ことに鮮明。蝶もつれつ日の中にありにけり

龍ヶ崎市 小宮 光司

戦火燃ゆ地球を覆ふ薄氷

伊賀市 菅山 勇二

春の陽を干に別けたる棚田かな

東京 伊藤 公一

うららかや子の恋文は箇条書

北本市 萩原 行博

幼子の見つめてゐたる蝌蚪の水

相模原市 はやし 央

たんぼばや父がコーチの草野球

神戸市 岩川 早苗

忘れ物したかのやうにぼたん雪

西東京市 岡崎 実

春風を纏ひて宇陀の磨崖仏

東京 徳原 伸吉

片山由美子選

ひととせをひもとくやうに桜咲く

嘉麻市 堺 成美

△評▽桜が咲くと一年が過ぎたことをしみじみ思う。大胆な比喩ながら、「ひととせをひもとく」に時の流れに対する感慨がこもる。踏みしめて砂の音きく春の雨

西宮市 平田 あい

△評▽どしゃぶりではなく、砂地にしみこむように降っている春の雨。砂の声に味わいがある。拳上げ赤子のあくびのどげしや

神奈川 成川 珠絵

春泥をこぼしつつ行く耕運機

鹿嶋市 津田 正義

川下る舟のかたむく蘆の角

相模原市 はやし 央

消えかけし表札ばかり猫の恋

山形 佐藤美和緒

真直ぐに朝日のおたる牡丹の芽

島根 百合本暁子

春昼や降車ボタンを押し忘れ

川崎市 久保田秀司

青鮫や家居の酒にすぐ酔ひて

富士宮市 矢野 悦子

退院を待つ盆梅の花盛り

高槻市 黒田 豊子

小川 軽舟選

日の匂ひ風のさざめき山笑ふ

千葉市 高橋 信子

△評▽冬は「山眠る」、春は「山笑ふ」。擬人化の季語を、作者自身の五感で受けとめようとした姿勢が好ましい。揚げたての母のドーナツ雛祭

白杵市 村上 玲子

△評▽ひな祭りにドーナツとは意外だが、幼い頃の母との思い出がなつかしく香るようだ。御所飾り商家の土間の仄暗し

津市 渡邊 健治

岩塩を散らすサラダや花曇

龍ヶ崎市 中山美恵子

トロフィーは父の遺品や春灯

飯塚市 倉田 幸男

啓蟄やマンホールからヘルメット

北本市 萩原 行博

空港の出発ロビー春シヨール

千葉市 木村 史子

菜の花やけふは図書館休館日

狭山市 小俣 友里

紅梅や隣家の竿にべピー服

奈良市 大塚 裕子

春景色ヒルの窓から見渡せり

神戸市 跡治 理彦

ウサギと激突する

川野里子

ことばの五感

・憧れて音が引けざりうつくしい補助線 うすいナイフのやうな

黒木三千代(『草の譜』)

ウサギと「激突」したことがある。ある朝、うすら闇のなかでドーンと音がした。ここは空き家になった実家で、裏の倉庫の何かが落ちたと思った。最近では古い家のあちこちが傷んでいるから倉庫の棚が落ちてもおかしくない。

明るくなって見に行く。すると、大きな灰色の野ウサギが長く落ちていた。手足を真っすぐ伸ばし、うしろも勢いよく下りジャンプしたウサギがそのまま家の壁に激突したのだ。近づくと腹部がかすかに脈打っている。生きている。脳しんとうを起こしたのだ。意識が戻れば山に帰るに違いないから放置した。

夕方、恐る恐る見に行くとウサギは消えていた。ホッとした。しかしよく見ると壁際に積んだ材木の隙間に頭を突っ込みうずくまっている。山に帰る元気がないのか、と触れるとすでに硬くなり死んでいた。

この空き家がなければウサギは無事に斜面を下っていたはずだ。野ウサギの跳躍力は素晴らしく垂直方向に3倍、水平方向に6倍ほど跳ぶと言う。その美しいジャンプの軌跡を唐突に遮ったのが空き家なのだ。家を始末できないのは私の感傷だ。まだ父母の音がする気がするからだ。しかしやがてこの家は朽ち、山野に還る。ウサギも鹿もきれいな軌跡を描いて跳べるようになる。ウサギのジャンプは私の心とぶつかったのだ。

(かわの・さとこ) 歌人